

# アジアで がんを生き延びる

がんは文明病といわれる  
正解のない問いである  
人類の難問としてのがんへの  
自らの問いを立てることは  
アジアの今と向き合う  
対話の回路をもつことである

月曜日 5時限 16:50-18:35

場 所：医学部教育研究棟 第1セミナー室

担当教員：東京大学大学院情報学環・学際情報学府

「総合癌研究国際戦略推進」寄附講座 特任教授 赤座英之

- 4/11 Cross-boundary Cancer Studies  
いま癌を学際研究で学ぶことの意味とは何か？  
吉見俊哉/東京大学教授
- 4/18 Cancer as a mirror  
アジアの癌の特徴から何が見えるか？  
赤座英之/東京大学特任教授
- 5/16 Asia Barometer  
アジアの人々は癌をどのように受け止めているのか？  
園田茂人/東京大学教授
- 5/23 Ethnography  
概念資源としての医療人類学の役割とは？  
波平恵美子/お茶の水女子大学名誉教授
- 5/30 Research Integrity  
カラダの情報は誰のものなのか？ - 癌情報の収集と利活用における研究倫理  
河原ノリ工/東京大学特任講師
- 6/13 QOL for Cancer  
がん患者の生活の質とはなにか？  
堀江重郎/順天堂大学教授
- 6/20 Health Economy  
いのちに値段はつけられるのか？  
福田敬/国立保健医療科学院 医療・福祉サービス研究部・部長
- 6/27 Abduction and AI  
人工知能はアジアのがんを読み解くことができるのか？  
一文理融合における仮説形成とアブダクション  
三宅淳/大阪大学教授
- 7/4 Action Research for Community  
アジアの食と文化  
一ひとはなんのために食べてきたのか？  
服部幸應/学校法人服部学園理事長
- 7/11 Diplomacy  
日本・アジア・アメリカ-いま、アジア外交はどのような視点でみていけばよいのか？  
藤崎一郎/上智大学特別招聘教授・前米国駐箚特命全権大使
- 7/25 学生発表  
& UHC という概念とアジアのがん  
赤座英之/東京大学特任教授

がんというアジアの喫緊の共有課題を通して、高齢化、経済格差、死生観の変容、グローバリズムとナショナリズムのねじれ、などアジアの今日的な課題が浮かび上がってくる。

本講義は、がんを医学はもとより、政治・経済・文化など様々な領域から捉えてみることを通して、世界の内実を読み解くことを学問的考察の端緒とする学際連携プログラム「Cross-boundary Cancer Studies」の一環に位置づけられている。

## 参考図書

**アジアでがんを生き延びる**  
赤座英之 河原ノリエ編  
東京大学出版会



**Japanese Journal of  
Clinical oncology**  
VOLUME 44  
SUPPLEMENT 1 2014

Surviving Cancer in Asia:  
Cross-boundary Cancer  
Studies,  
The University of Tokyo  
OXFORD UNIVERSITY PRESS



### 講義への問い合わせ

[norie.kawahara@med.rcast.u-tokyo.ac.jp](mailto:norie.kawahara@med.rcast.u-tokyo.ac.jp)

(担当 河原)

Tel:03 (5452) 5347 Fax:03 (5452) 5343

大学院生以外の聴講参加可能

**冬学期に本授業と連動した授業を開講予定**

ITASIA128 Surviving Cancer in Asia

[www.siccn.org](http://www.siccn.org)